



第63回 日本神経学会学術大会

2022年 5月18日(水)・21日(土)

大会長：服部信孝 順天堂大学大学院医学研究科神経学 教授 会場：東京国際フォーラム

Perspective of Neurology in a centenarian society

幸福100年社会における脳神経内科の展望

～AI技術との共存に向けて～

講演情報

一般演題口演セッション

[O-16] 一般演題口演セッション16

2022年5月19日(木) 09:45 ~ 10:45 第07会場 (東京国際フォーラム Dブロック 7F ホールD7)

座長:高橋 慎一(埼玉医科大学国際医療センター脳神経内科・脳卒中内科)

[O-16-2] 脳主幹動脈閉塞を発症した心房細動患者のCHA2DS2-VAScスコアと長期予後の関連

尾原 信行^{1,2}, 藤堂 謙一², 今村 博敏³, 坂井 信幸³, 山上 宏⁴, 内田 和孝⁵, 吉村 伸一⁵, 森本 剛⁶, 望月 秀樹²

(1.神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経内科, 2.大阪大学大学院医学系研究科 神経内科学, 3.神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科, 4.国立病院機構大阪医療センター 脳卒中内科, 5.兵庫医科大学 脳神経外科学, 6.兵庫医科大学 臨床疫学)

【目的】CHA2DS2-VAScスコアは非弁膜症性心房細動(NVAF)の脳梗塞発症リスクを評価する指標として広く用いられている。本研究の目的は、脳主幹動脈閉塞(LVO)を発症したNVAF患者の予後予測におけるCHA2DS2-VAScスコアの有用性を明らかにすることである。【方法】多施設共同前向き観察研究「脳主幹動脈急性閉塞/狭窄に対するアピキサバンの効果に関する研究(ALVO)」のサブ解析。LVOによる脳梗塞の発症から14日以内に経口抗凝固薬アピキサバンを開始されたNVAF患者を対象に、脳梗塞発症前のCHA2DS2-VAScスコア0-1(L群)、2-3(M群)、4以上(H群)に分類し、1年後の転帰不良(mRS3-6)、複合エンドポイント(1年以内の虚血/出血イベント+死亡)について比較検討した。【結果】解析対象は633名(平均年齢77.4歳、女性48.2%、CHA2DS2-VASc中央値3)。CHA2DS2-VAScスコアが高値であるほど1年後転帰不良が多く(L群18.9%、M群41.9%、H群60.1%、 p for trend < 0.0001)、複合エンドポイント発生率が高かった(L群11.0%、M群15.1%、H群21.2%、 p for trend = 0.013)。発症前mRS、発症時NIHSSを調整因子として行った多変量解析では、L群に対する1年後転帰不良のオッズ比はM群2.4(95%CI 1.36-4.33, $p=0.003$)、H群3.7(95%CI 1.94-6.89, $p<0,0001$)、複合エンドポイントのオッズ比はM群1.3(95%CI 0.68-2.62, $p=0.43$)、H群2.1(95%CI 1.04-4.29, $p=0.037$)であった。【結論】CHA2DS2-VAScスコアはLVOを発症したNVAF患者の予後予測にも有用である。